

令和5年11月22日

教育委員会第11回定例会記録

石巻市教育委員会

教育委員会第 1 1 回定例会記録

◇開会年月日 令和5年11月22日（水曜日） 午後 1時30分開会

午後 2時14分閉会

◇開催の場所 本庁舎4階 庁議室

◇出席委員等 4名

教 育 長	宍 戸 健 悦
委 員（教育長職務代理者）	阿 部 邦 英
委 員	梶 谷 美 智 子
委 員	大 和 千 恵

◇欠席委員等 1名

委 員	依 田 晴 美
-----	---------

◇出席職員 事務局長 鈴木 憲

事務局次長 今 野 良 司

事務局次長（教育・文化芸術振興担当） 工 藤 聖 子

教育総務課長 赤 坂 将 人

学校再編推進室長 星 憲

学校教育課長 福 田 光 一

学校安全推進課長 佐々木 伸

学校管理課長 土 田 順 平

生涯学習課長 水 澤 秀 晃

◇書 記 教育総務課長補佐 成 澤 和 彦

教育総務課総務係長 平 塚 悦 子

教育総務課主幹 大 内 重 義

◇付議事件

一般事務報告

- ・教育長報告
- ・学校給食の直接徴収について

その他

午後 1時30分開会

○**宍戸健悦教育長** それでは、ただいまから令和5年第11回定例会を開催いたします。

本日の会議ですが、依田委員から欠席との連絡を受けております。

会議録署名委員の指名

○**宍戸健悦教育長** それでは会議録署名委員の指名を行います。

本日の会議録の署名委員は大和委員にお願いいたします。

よろしく申し上げます。

教育長報告

○**宍戸健悦教育長** それでは、本日の案件に入ります。

本日の案件は、一般事務報告が2件、その他となっております。

それでは、一般事務報告に入ります。

初めに私から報告をいたします。

コロナに替わってインフルエンザの感染状況について、報告をいたします。10月中旬からインフルエンザによる学級、学年閉鎖が発生しておりますが、11月に入ってから延べ17校が学級、学年及び学校閉鎖を行っているところであります。今後とも予断を許さない状況であると捉えております。朝晩の冷え込みが厳しくなり、風邪症状の子どもたちも増える時期でありますので、教職員のワクチン接種や、手指の消毒、教室の換気を含め、感染予防対策を工夫した教育活動について継続して取り組んで行くように指導してまいりたいと考えております。

次に、学校の状況についてでございますけれども、11月5日に行われた市の総合防災訓練では、初めて市内全小・中・高校が登校日として参加いたしました。地域の方々と訓練方法や地域の災害リスクについて協議を行い、学校と地域が協力しながら、防災について学ぶ良い機会になりました。

11月に入り、2学期の大きな行事はほぼ終わることができました。これからは学期末に向けたまとめと、中学校では三者面談が行われ、進路関係の準備に入っていくこととなります。

また、12月には学力向上に向けた第2回標準学力調査が予定されており、4月からの学びを振り返り、児童生徒一人一人が前回の結果より少しでも上回れるよう、期待しているところでございます。

また、今年度の冬季休業の期間につきましては例年どおりとし、第2学期終業式が12月2日金曜日、第3学期始業式が1月9日火曜日となる予定でございます。

令和5年度宮城県教育委員会・市町村教育委員会教育懇話会（全体会議）が11月13日県庁2階講堂において開催され、阿部委員とともに出席してまいりました。

教職員の働き方改革についてを主なテーマとして、県の取り組みの説明と、「先生のゆとりは子どもの輝きに直結」と題して、先生の幸せ研究所代表取締役の澤田真由美様と授業づくり実践アドバイザー兼大日向小学校教頭の青山光一様から講演をいただきました。

働き方改革の目指すべき方向性は、教師のこれまでの働き方を見直し、教師自らの人間性や創造性を高め、子どもたちに対してより良い教育を行うことができるようにすることであり、子どもたちが輝くことに直結することが強調されました。講演の様子は動画配信もありますの

で、ぜひ御覧いただきたいと思います。

教職員の働き方改革については、この後の総合教育会議でも市長を交えてさらに議論をしていきたいと思います。

では、次に市議会第4回定例会は12月11日に開会予定となっております。

以上で報告を終わります。

何か御質問ございませんか。よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

学校給食費の直接徴収について

○**宍戸健悦教育長** ではなければ、次に「学校給食費の直接徴収について」の報告を学校管理課長からお願いいたします。

○**土田順平学校管理課長** はい、教育長。

○**宍戸健悦教育長** はい、学校管理課長。

○**土田順平学校管理課長** はい、それでは私から学校給食費の直接徴収につきまして御説明申し上げますので、表紙番号2番の一般事務報告資料の1ページを御覧願います。

まず、②「施策等を必要とする背景及び目的（理由）」でございますが、令和元年7月に文部科学省が作成した「学校給食徴収・管理に関するガイドライン」において、学校における働き方改革を推進するためには、学校給食費の徴収・管理業務を自治体が自らの業務として行うことが適切であるとの見解が示されております。

令和5年1月に本市で策定しました「教職員の働き方改革に関する取組方針」の重点項目として位置付けられているところでございます。

本市では学校給食費の直接徴収について、令和7年度から実施することにより教職員の負担を軽減するとともに、学校給食費の徴収・管理業務の効率化を図るため、「学校給食費の直接徴収について」実施を行うものであります。

③「根拠法令及び総合計画又は個別計画との整合性」でございますが、根拠法令については一般事務報告資料に記載のとおりでございます。また、個別計画につきましては、「教職員の働き方改革に関する取組方針」に関連するものでございます。

続いて④「提案に至るまでの経過（市民参加の有無とその内容を含む。）」でございますが、令和5年1月に「教職員の働き方改革に関する取組方針の重点項目として位置付けられ、関係機関との協議を経まして、令和5年の10月に総合計画の実施計画が策定されているところでございます。

⑤「主な内容」でございますが、現在、学校で実施している学校給食費の徴収・管理業務を本市に移管するものでございます。主なものとしましては、保護者への給食費の請求及び収納、学校給食費支払い状況の毎月確認、学校給食費未納者への督促等滞納金の管理でございます。

⑥「実施した場合の影響・効果（財源措置及び複数年のコスト計算を含む。）」でございますが、働き方改革の下、学校教職員の業務負担が軽減され、システム化することで台帳の電子化及び一元管理することによりまして、煩雑業務の解消が見込まれるものです。

また、口座振替対象金融機関の増加により、給食費納入者の利便性の向上が図られると

ころでございます。

学校給食費の徴収管理のシステムも含めた事業費の概算でございますが、令和6年度から11年度で大体1億532万7,000円を見込んでおりますが、これはあくまでも、令和6年度の当初予算ベースでございます。今後の調整の中で審査を受け、数字が決まっていくものでございますので、あらかじめ御承知おきくださいますようお願い申し上げます。

続いて⑦「他の自治体の政策との比較検討」でございますが、令和5年4月1日現在で、宮城県内35市町村のうち25市町村、割合にしまして71.4%の市町村が学校給食費の直接徴収を実施しているところでございます。

令和5年4月1日現在、県内14市の中で、本市、塩竈市、名取市、岩沼市の4市が未実施という状況でございます。

続いて⑧「今後の予定および施行予定年月日」でございますが、今後、第4回定例会におきまして、関連する債務負担行為等の予算を設定した上で、令和6年2月に学校給食費徴収管理システムを構築しまして、併せて第1回定例会の中で、給食費の条例制定について提案し、令和6年度1年間かけて直接徴収に必要な事務手続き、例えば一般事務資料に記載をしております給食提供申込書や、口座振替依頼書を保護者へ配布して取りまとめる作業も含めて準備をし、令和7年4月に学校給食費の直接徴収を予定しているところでございます。

私からの説明は以上です。

○中央戸健悦教育長 はい。それでは、ただいまの報告について御質問ございませんか。

○梶谷美智子委員 はい。

○中央戸健悦教育長 梶谷委員さん。

○梶谷美智子委員 質問ではないのですが、これまでは、子どもたちが現金を学校に持つことによって事故につながる場合も考えられ、働き方改革という観点から学校給食費の直接徴収は本当に現場としてはありがたいと思いますし、進めていただきたいと思います。

また、学校給食費の集金で困ったこととして、残高不足で口座から引き落とせないケース、転出入があると煩雑になり、大変な業務になった経験があります。そういったところを心配しています。

それから、未納時の督促手順について、今後の対応を教えてくださいたいと思います。

○中央戸健悦教育長 はい。では、学校管理課長。

○土田順平学校管理課長 はい。お答えいたします。

まず、一点目の転出入があった場合、あるいはアレルギー対応の方がクラスにいらっしゃる場合の手続きにつきましては、現在は学校担任の先生や教頭先生または給食担当の先生にケアをしていただいています。

直接徴収の制度に移行した後も、各学校で取りまとめていただける形になると思います。

その取りまとめた報告を市で一元管理し、保護者の方に請求等の手続きを踏んでいくということなので、徴収管理業務が市に移管された後も、そういった細かい部分の報告については、各学校さんの協力が引き続き必要と考えています。

直接徴収管理するにあたってはシステム化されますけど、各学校さんと協力連携しながら、

事務手続きを進めていきたいと考えております。

二点目の、滞納の関係については、現年度分は、各学校さんで対応していただいている状況です。

そこで、未納状態が続いて年度を超えた過年度の未納者については、これまでも学校管理課が学校さんから引き継いで事務手続きをしまして、それでも電話の催告等にも応じていただけない場合は、学校長と市長の連名で催告書を発行する対応を取っています。この流れについては、直接徴収に移行した後も、同じ考え方になるのではないかと思います。これから細かい部分の直接徴収に向けた条例や、規則の制定改廃を予定しておりますので、詳しく精査をしていきたいと考えております 以上です。

○梶谷美智子委員 はい。ありがとうございました。

○宍戸健悦教育長 よろしいですか。

○梶谷美智子委員 はい。そうすると、直接全部市が実施するというのではなく、市から学校に徴収状況について連絡がいて、そこで、督促を出す、あるいはみんな一律でない個々の事情も学校が取りまとめて、市教委と連携しながら、徴収していくということでしょうか。

○宍戸健悦教育長 はい。学校管理課長。

○土田順平学校管理課長 はい。お答えいたします。

学校長との連名で督促状を出すかという点については、これまでと同じ手法にするのかを含め検討をしているところです。

ただ、滞納者、未納者への対応に関して言えば、今各学校さんで現年度分は対応していただいているのですが、今後学校管理課が対応していくということですので、できる限り学校側の負担にならないよう、進めていきたいと考えております。

○梶谷美智子委員 はい。ありがとうございました。よろしく願いいたします。

○宍戸健悦教育長 よろしいですか。

○梶谷美智子委員 はい。

○宍戸健悦教育長 あくまでも、欠食分は学校が把握していますから、教育委員会と学校との連携は今後も必要だと思います。

転出入も含めて欠食分については、学校と教育委員会で連携をしながら対応することになると思います。

ただ、全体としては、かなりの負担軽減にはなると思います。

ほかにごいませんか。

○大和千恵委員 はい。

○宍戸健悦教育長 はい。大和委員さん。

○大和千恵委員 保護者は、現金を用意し学校に持たせるよりも、引き落としにさせていただくと、保護者の負担が減り、良い取り組みだと思い聞いておりました。

今後、学校で使う学年費や教材費は学校で管理し、給食費は市で管理するという形になりますでしょうか。

○土田順平学校管理課長 はい。

○宍戸健悦教育長 はい。学校管理課長。

○土田順平学校管理課長 はい。学校給食費は公会計化、いわゆる直接徴収となりますので、その他の学校から徴収されている負担金や会費は、また別になります。今回はあくまでも学校給食費だけとなりますね。

○大和千恵委員 はい、分かりました。ありがとうございます。

○宍戸健悦教育長 はい、よろしいですか。

○大和千恵委員 はい。

○宍戸健悦教育長 その他のいわゆる会費等についても、できるだけ効率的な集金、管理ができるように、今後工夫していかなければならないと考えています。

ほかよろしいでしょうか。

○阿部邦英委員 はい。

○宍戸健悦教育長 はい、阿部委員さん。

○阿部邦英委員 ぜひ進めていただきたいと思います。

○宍戸健悦教育長 はい、ありがとうございます。

それでは、なければ一般事務報告を終了し、その他に入ります。

その他

○宍戸健悦教育長 はじめに委員の皆さんから何かございませんか。

○梶谷美智子委員 はい。

○宍戸健悦教育長 はい、梶谷委員さん。

○梶谷美智子委員 石巻市では学力向上の推進に計画を立てて取り組んでおりますが、これまで研究指定校や、公開研究会への参加や、教師が学ぶ場がいろいろありました。コロナの影響でここ何年か開催できずにいたと思いますが、そういった場合はコロナ前の状況に戻りつつあるのでしょうか。あるいは何か形を変えて研修が行われているのでしょうか。現状を教えてくださいたいと思います。

○福田光一学校教育課長 はい、教育長。

○宍戸健悦教育長 学校教育課長。

○福田光一学校教育課長 今年度は石巻教育研究会（石教研）の一斉授業研究会も復活しましたのでコロナ前の状況に戻りつつあります。市の教科等指導員が各地区で授業した際にその地区の先生たちが授業を見に来て、そこで研修会を開催する取り組みも行っていますので、研修自体は復活しています。ただ中学校だと、教科の先生が1人しかいない学校も多くなってきていますし、小学校だと単学級の学校も多くなってきているので、小学校であれば担任同士のつながり、中学校だと教科同士のつながりという、学校を超えて地区内で小規模な研修会が増えている傾向は見られます。以前のように一堂に会した研修も復活しながら、弱点と思われる部分の研修会も開いている状況であり、少しずつコロナ前の状態に戻りつつあります。

○梶谷美智子委員 ありがとうございます。以前のような研究指定校はなくなったのでしょうか。

○福田光一学校教育課長 はい。

○宍戸健悦教育長 はい、学校教育課長。

○福田光一学校教育課長 現在、本市で受けている研究指定校はありませんが、県内では個別

最適な学習など、いろいろな案内はきていますので、県の指定を受けている学校もあります。本市が最後に指定を受けたのは、コロナの影響により紙面発表となった向陽小学校が最後です。

○梶谷美智子委員 分かりました。ありがとうございました。

○宍戸健悦教育長 学校現場で出張に出るのが大変だということと、働き方改革も含めて、指定校制度は少なくなってきました。現在の研修についてはオンライン研修があるので、例えば国の研修もオンラインと併用して実施するなど、新しい形に変わってきているなと思います。研修の場は非常に重要ですし、先ほど学校教育課長が説明したように、同じ教科の先生がいない、あるいは単学級の構成の学校の場合、協議したり先生同士で参考にし合うという意味では、研修は非常に必要な状況であり、域内で研修の場をできるだけ設定するよう工夫しているということで、これからは対面の研修機会も増やしていければと思っています。あとほかにございませんか。

(発言する者なし。)

○宍戸健悦教育長 教員の年齢構成を見ると、30代以下が過半数を占めています。教員の指導力向上のために、研修は非常に重要なウエイトを占めています。若い世代の先生方が多くなってきていることから、結婚されて産休に入る先生や育休を取る先生もいらっしゃいます。各学校内での研修体制や協力体制が非常に重要であるとともに、人事面でも人手不足の状況であることから、考えていく必要があると思います。

また、地域間格差といいますか、都会に人が流れていく、都会に家を建て、そして通勤して来る先生もでてきていることもあり、環境面の変化に付いても考えていかなければならないと思います。人事面では、都市部との人事交流について要望を出しているところであります。人手不足という状況は教員だけではないと思うのですが、大和委員さん漁業はどういう状況ですか。

○大和千恵委員 大変人出が不足している状況です。私の話になってしまうのですが、70歳ぐらいの親戚の方に手伝っていただいて操業している状況です。教員と違い、就職・就業の入り口が分かりづらいのではないかと思います。今フィッシャーマン・ジャパンさんで、石巻で若者が働きやすいようにお手伝いしていただいているのですが、本当にどこの浜でも人手が足りていない状況です。ただ、うちには先月仙台から50代の新しく働きたいという方がフィッシャーマン・ジャパンさんを通していらっしゃって、働き始めています。漁業や教員は大変な仕事だというイメージが結構強いのではないかと、仕事とプライベートの境目がない終わりが無い仕事であると思うのですが、教員の楽しさ、やりがい世の中に伝わっていくと、なりたいたい子どもも増えるのではないかと考えています。漁業もすごく楽しい魅力のある仕事ではあるのですが、朝が早いところがクローズアップされてしまいます。魅力を伝えていける生の声、先生方からの声が聞こえてくるといいのではないかと感じています。

○宍戸健悦教育長 やはり都市部との交流は、大きいですね。先ほど仙台の50代の方の話がありましたけど、やはり広域で人の交流がどんどんできるようにしていくことは、必要だと思います。

はい。そのほかにかごさいませんか。よろしいですか。

○**梶谷美智子委員** はい。

○**宍戸健悦教育長** 梶谷委員さん。

○**梶谷美智子委員** 教育長さんの報告の中に、11月5日の総合防災訓練の話がありました。小中学校の登校日の実施だったので、児童生徒が地区の訓練に参加したと思います。私の地元稲井地区では、小中学生が集会所に地域の方と一緒に避難し、備蓄していた非常食や水を皆で食べました。その時に小中学生が配布のお手伝いや高齢者のお世話など、一生懸命やってくれていました。11月5日の総合防災訓練への小中学校の参加校や実施内容についてのまとめをわかる範囲で参考までに教えていただけたらと思います。

○**佐々木伸学校安全推進課長** はい。

○**宍戸健悦教育長** はい、学校安全推進課長。

○**佐々木伸学校安全推進課長** はい。今お話にありました11月5日の総合防災訓練については、学校からアンケートを取ってまとめており、学校防災だよりも掲載する段取りを進めています。今回登校日に実施したことで、比較的多くの学校から連携が図られたという回答をいただいております。また今回、地域の人たちと一緒に地域にある集会所に避難したということで、いろいろな発見があったという回答もいただいております。今回の防災訓練は、非常にうまく対応ができた、地域が活動的ではない中でも工夫して訓練に参加できたという回答をいただいております。以上です。

○**梶谷美智子委員** ありがとうございます。御近所の方に、避難するときにリュックの中に何を入れればいいのかという質問があったときに、お孫さんから、非常食に缶詰と水は入れたほうがいいよと教わったとおっしゃっていました。学校の防災学習が活かされ子どもの身につけて、家族で訓練に参加した方もいらっしゃったので、非常に良い取り組みだったと思いました。

○**宍戸健悦教育長** 私も桃生や各地区を回って見たのですが、地域の方々と一緒に訓練に参加することによって、地域の方々が、地域について、あるいは防災について考える機会になったのではないかと思います。地区ごとの災害リスクや、徒歩での避難はどこに行けばよいかということについて議論をして、いろいろな訓練の方法を考えていただいたようです。地域の方々にとっても、自分の地域の災害リスクがどういうものがあるのかということの理解が進んでいるなど感じました。初めての全体での取り組みであり課題はあると思うので、継続することによって、より浸透してスムーズになるのではないかと思います。

○**梶谷美智子委員** そうですね。

○**阿部邦英委員** 関連していいですか。

○**宍戸健悦教育長** はい、阿部委員さん。

○**阿部邦英委員** 私の住んでいる地区は、今年の総合防災訓練は学校が登校日ということで、ほとんどの小中学生が参加したと感じました。ただ、地域側がこれまでどおりの小学生向けの安全教室を実施したところ、中学生はお手伝いはしていましたが、若干暇だったようです。今後に向けてどのような訓練を実施すればいいのか、大人側も考えたほうがよいのではないかと感じました。ある中学校では、赤ちゃん役、高齢者役、妊婦さん役など演劇形式で訓練したようです。それはいいことだと感じました。以上、紹介でした。

○**梶谷美智子委員** 私の地区も地域防災連絡会において、学校と行政委員さんが打ち合わせを重ね、より多くの小中学生に参加してもらえよういろいろ練って臨んだようです。しかしながら、地域によってはそのような対応が難しいこともあるかと思います。高齢の方が多く、避難してくださいと言われても避難場所に行けない地区もあり、訓練プログラムが決まっている地区の場合は、なかなか小中学生と一緒に実施するということが難しいこともあるようです。今年の総合防災訓練の総括については、取りまとめている段階との課長さんのお話でしたけれども、良いところは今後も続け、さらに改良していく。改善すべき部分があれば改善していくことが良いと思いました。

○**宍戸健悦教育長** 先ほど課長から地域によって温度差や、活動内容のばらつきが見られるとの説明がありましたが、繰り返すということによって、うちの地区でも何かしなきゃならないと学校と一緒にになって議論し、考えてもらうきっかけになるのではないかと思います。私は地域が安全になってこそ学校も安全になると思います。学校は、いざというときの避難場所、安全の拠点になるので、地域と一緒に動かないといけない、大事な取り組みとして考えていきたいと思っています。

ではそのほかよろしいですか。

(「はい」の声あり)

○**宍戸健悦教育長** はい。では各課長さん方から何かございませんか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○**宍戸健悦教育長** ではないようでしたら、次回の定例会の日程についてお願いします。

○**成澤和彦教育総務課課長補佐** はい。次回12月の定例会につきましては、12月27日水曜日、午後3時30分から開催する予定でございます。場所につきましては、本日と同じ市役所4階庁議室で開催いたします。どうぞよろしく願いいたします。

(「はい」の声あり)

○**宍戸健悦教育長** それでは以上を持ちまして本日の定例会を終了いたします。このあと3時30分から総合教育会議ということになりますので、よろしく願いいたします。

午後2時14分 閉会

教育長 宍戸健悦
署名委員 梶谷美智子